令和4年度 学校自己評価 最終報告

石川県立七尾特別支援学校

重点目標		具体的取組		主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果や今後の課題
1	授業実践力の向上	①	児童生徒の目指す姿を単元レベルで位置づけ「自ら考え、学びに向かう授業」の実現に取り組む。	研究研修課	児童生徒の目指す姿を明確化した単元計画の作成と、単元終了後の見直しを各期1つ以上年間3つ以上行った教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	単元計画を作成し、見直しを後期に1つ以上、年間に3つ以上行った教員の割合 81% 判定 A	単元計画を作成し、学部やグループで自分や他の教員の単元計画を検討した回数が、3回以上の教員の割合が約81%となった。今年度は「自ら考え、学びに向かう授業」を目指し、児童生徒の目指す姿を明確にすることを意識しながら、単元計画を事前事後で検討し研究授業を行った結果、それぞれの学部で成果や課題が明らかになった。今後は課題を踏まえ、児童生徒が生きる力を育むことができる授業づくりをより進めていく必要がある。
		②	児童生徒が主体的にタブレット端末やICT機器を活用できる授業に取り組む。	情報教育課	児童生徒がタブレット端末やICT機器を活用する授業を行った教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	児童生徒がタブレット端末やICT機器を活用する授業を行った教員の割合 94% 判定 A	授業の主担当者となっている教員へのアンケート調査から、児童・生徒がタブレット端末やICT機器を活用する授業を行った教員の割合が94%であることがわかった。GIGAスクール構想2年目となり、年度当初より月に1度校内で研修を実施した。タブレット端末の基本的な使い方や、授業での実践報告会などの研修により、教員のタブレット端末やICT機器に対する苦手意識が減少したと考えられる。今後は、すべての児童・生徒が主体的にタブレット端末やICT機器を活用できるような方策が必要である。
2	組織的・系統的な キャリア教育	①	児童生徒が家庭での役割「チャレンジカード」の取り組みを年2回実施する。実施後、各家庭での支援方法や手順、反省点等を集約して、全保護者に情報提供し、活用できるようにすることで学校と家庭とが連携したキャリア教育に取り組む。	小学部 中学部 高等部	各家庭で児童生徒が自分の役割に取り組み、学校への情報提供や学校から得られた他の家庭の情報を活用することができた家庭の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	学校への情報提供や学校から得られた他の家庭の情報を活用することができた家庭の割合 86% 判定 A (小学部87%、 中学部90%、 高等部84%)	2回の「チャレンジ通信」発行した。第1号(10月)は、取り組みの結果、チャレンジ内容(目標)、保護者のコメントを掲載した。第2号は、継続している内容、工夫点、学校との連携内容を掲載した。 これらの情報提供の取り組みをもとに、保護者向けにアンケートを行い、「活用することができた」との回答が86%であった。 情報提供については、「他の家庭での取り組みや工夫したことを参考に取り組むことができ良かった。」「他の家庭の工夫は参考になるだけではなく、頑張っていることが伝わってきて前向きな気持ちになった。」などの感想があった。取り組みについては「子どもに何ができるかを考え、経験させる良い機会になった。」「役割の意味・意識づけを身をもって体感できる取り組みで良い。」等の前向きな感想が多くあった。 この取り組みは児童生徒、保護者ともに定着し、日常の役割としているという報告もあった。今後はキャリアパスポートの一部として、この取り組みを継続して実施する予定である。

重点目標		具体的取組		主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果や今後の課題
3	安心・安全な学校づくり	①	児童生徒が自分や友達を大切にしながら、他者との適切な関係づくりができる学びに取り組む。	生徒指導課 中学部 高等部	(対象となる生徒に対して) ネットワーク使用で他者とのやりとりを適切に行う学習を、各期に1回以上取り組んだ学級の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	後期に1回以上、携帯電話等に関する確認や学習を行ったクラスの割合 100% 判定 A	学年や学級活動を中心に年間2回以上実施できた。「ルールを守ろう」「メッセージの伝え方」「グループトークについて」「友達とのやりとりで気をつけたいこと」などをテーマに、HR活動、職業、部集会、休み時間など様々な場面において指導を実施している。課としても情報教育集会や携帯電話会社と連携した安全教室を企画し実施することができた。学校全体の課題として、今後も継続した指導ができる体制づくりの工夫が必要である。
		②		小学部	児童生徒が、自分や友達の心や体を大切にする意識が見られた学習を各期に1回以上実践した学級の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	自分や友達の心や体を大切にする意識が見られた学習を後期に1回以上実践した学級の割合 82% 判定 A (小学部80%、 中学部83%、 高等部85%)	小学部ではほとんどの学年で「友達と仲良くする」ということを大切にした学習をしている。日常生活場面でも繰り返し指導することで、友達を大切にする言動や行動が見られ、友達と仲良く関われる姿が増えている。今後は各学年で指導内容を共有化し、小学部全体で指導できるようにしていきたい。
				中学部				中学部では保健分野で年間指導計画をもとに心や体を大切にする授業が行われている。また、中3では生活単元学習のテーマに「支えあい、助け合い、協力する。」という内容をあげ、繰り返し指導する場面を設定し、生徒の意識づけにつながった。今後も年間指導計画にあげ、先行事例を参考にし進めていきたい。
				高等部				高等部では、「友達がどう感じるかを考える」ことや「友達とのやり取りの仕方」について題材にあげ学習した。より相手を意識して考えたり、行動したりすることを学習することで意識の変化が見られた。今後も、具体的な場面を基に友達と対話を行いながら心と体について考えることで意識づけを高めていきたい。
4	業務の効率化	①	学級経営や校務分掌において、各業務を計画的に実行することで、業務の平準化に取り組む。	全教員	各業務で可視化されたスケジュールを作成して実行した回数が、各期に2回以上の教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	各業務で可視化されたスケジュールを作成して実行した回数が、後期に2回以上の教員の割合 86% 判定 A	前期同様のアンケートを実施し、65名の回答から86%の教員が、後期に2回以上可視化されたスケジュールを作成して実行した。前期と比較して5ポイント上昇している。アンケートの詳細調査から、活用した業務として最も多いのは、前期に続き授業に関するもので、これに次いだ各課の担当業務が大きく伸び、半数以上が活用している。また、2回以上実行者と同数の86%が業務の効率化につながったと回答しており、今回の取組が成果につながっていると考えられる。